

特別講演概要

演 題 「エバーメクチン物語」

講 師 公益社団法人山梨科学アカデミー名誉会長

北里大学特別荣誉教授

大村 智 氏

講演内容

平成28年5月30日（金）に開催された交流大会では、ノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智名誉会長が「エバーメクチン物語」と題して特別講演を行いました。

幼少の頃のエピソードや、静岡県内の土壌から発見した微生物が作る抗生物質「エバーメクチン」から熱帯病の特効薬「イベルメクチン」が開発された経緯などについて解説されました。

広く県民を対象にした講演はノーベル賞受賞後初めてとなり、会場には約350人の聴衆が集まり、話に耳を傾けていました。

大村智先生の功績

大村先生は50年にわたり抗生物質など微生物が生産する天然有機化合物の研究を続け、約500種の新規化合物を発見、そのうち26種が医薬、動物薬、農薬および研究用試薬として世界中で使われています。

特にイベルメクチンは、現在WHOの指導の下、重篤な熱帯病であるオンコセルカ症（河川盲目症）とリンパ系フィラリア症を撲滅するためにアフリカで年間約3億人に使われ、前者は2025年、後者は2020年に撲滅される見通しとなっています。その他、糞線虫症、疥癬症などにも優れた効果を示しています。

エバーメクチン（イベルメクチンの基になる抗生物質）を生産する菌は大村先生らが発見した*Streptomyces avermectinius*が唯一のものであり、現在でもこの菌が薬の生産に用いられています。

大村先生によって発見された微生物が生産する天然有機化合物は、有機合成化学など自然科学および医療の発展にも貢献しています。